NEWS LETTER
きぼう

[編集・発行]
社会福祉法人全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

JAPAN NATIONAL COUNCIL OF SOCIAL WELFARE
INTERNATIONAL SOCIAL WELFARE FUND COMMITTEE
4F Shin-kasumigaseki Building, 3-3-2 Kasumigaseki,
Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980
TEL: 03-3592-1390 FAX: 03-3581-7854
E-MAIL: z-kokusai@shakyo.or.jp
URL: http://www.shakyo.or.jp/

Vol. 92 | 2024.3.29

もくじ

P.1 約 11 か月間の研修が修了ー第 37 期アジア社会福祉従事者研修 修了式を実施
P.4 第 38 期アジア社会福祉従事者研修生が来日
P.5 アジア研修事業修了生の活動への理解を深める ―インドネシアへのスタディ・ツアーを実施―
P.7 育むプロジェクト 子どもたちの近況が届きました
P.8 社会福祉分野での国際交流に参加しませんか ―国際交流・支援活動会員登録のご案内― ほか

約 11 か月間の研修が修了
―第 37 期アジア社会福祉従事者研修 修了式を実施―

第 37 期アジア社会福祉従事者研修生 5 名は、約 11 か月間にわたる研修を修了しました。令和 6(2024)年 2 月 22 日には修了式を執り行い、研修先の社会福祉法人・福祉施設の皆さまのほか、国際社会福祉基金委員会委員、日本語教師、関係者など約 50 名に出席いただきました。

修了証書を授与された 5 名は、明瞭な日本語でスピーチ発表を行い、日本で育んだ人とのつながりを大切にしながら、研修での学びを母国の社会福祉の発展に生かしていく決意を述べました。その後に行われた謝恩会には、タイ王国大使館のウラワット公使参事官とアチャラー参事官にもご臨席いただきました。37 期修了生は思い出の写真によるスライドショーと手話を交えた歌を披露し、日本での研修への感謝の気持ちを伝えました。

修了生は 2 月 24 日、無事にそれぞれの母国に帰国しました。

★第 2 回施設研修

第 37 期研修生 5 名は、9 月末から 1 月中旬にかけて、第 2 回施設研修に取り組みました。研修生が書いた研修レポートをもとに、第 2 回施設研修の様子を報告します。施設研修にご協力いただいた法人のみなさまに、心より感謝申しあげます。

チョイさん（韓国）

社会福祉法人 常盤会（鹿児島県鹿児島市）

研修を通して、日本における障害者の就労支援制度について、多くのことを学びました。常盤会では、利用者本人の希望する就職先を探すため、地域の関係機関や企業との連携に力を入れていました。定着支援のための仕組みもあり、日本は韓国に比べて就職支援の仕組みが細かく整備されていて大変参考になりました。

救護施設や高齢者施設など、常盤会の事業所は人を尊重する雰囲気があり、研修を通じて地域社会や福祉施設、人と人とのつながりについて考える機会となりました。

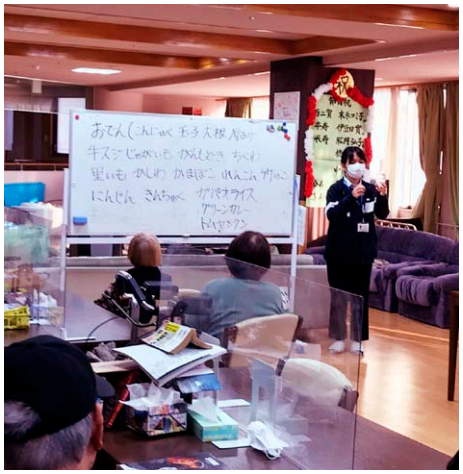
シンヅさん（台湾）

社会福祉法人 八尾隣保館（大阪府八尾市）

母子生活支援施設では、母子家庭の自立のサポートのほか、産後ケア事業や、地域の学習支援事業を行っていました。産後ケアでは、助産師による産後の母親のケアや母子支援員による心のケアなどを行っていました。学習支援では家庭での学習が困難な地域の中学生を対象に、学習塾の講師や大学生が先生となって個別に支援をしていました。自治体が費用の支援をしており、とても良い事業だと思いました。高齢者施設では、さまざまな介助の方法を学びました。児童施設と同一敷地内にあるため、子どもと高齢者が多世代交流の取り組みを行っており、とても良いと思いました。

アイさん（タイ）

社会福祉法人 慈愛会（福岡県）



乳児院には長期利用だけでなく、短期利用の子どもがいて、深刻な状況にある家族や子どもたちだけでなく、親のリフレッシュのためなど、さまざまな理由で活用されていることが分かりました。医療型障害児入所施設では、在宅で生活している子どもの相談対応やケアを行っており、家族、地域、関係機関との連携によって支援がなされていました。

利用者の状況や家族の状況の全体像が分かると、それぞれが抱える問題の解決に役立つことが分かりました。そして利用者、家族、地域が連携することと、専門職のチームワークが大切だということを学びました。

イスルさん（スリランカ）

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団（奈良県生駒市）

乳児院やこども園、児童発達支援センターなど、多くの施設で研修しました。どの施設でも、職員が赤ちゃんや子ども一人ひとりのことを真剣に考えながら対応していました。子どもの生活をどのように支援するかということや、コミュニケーションの取り方を学びました。また、初めて高齢者施設でのサービスを経験しました。食事介助や入浴介助のほか、ケアマネジャーの役割や、介護保険制度についても学び、スリランカの高齢者のことについても知りたいと思うようになりました。今回の研修で得た知識を、スリランカの人たちのために役立てたいと思っています。

リズキさん（インドネシア）

社会福祉法人 天竜厚生会（静岡県浜松市）

障害者施設や高齢者施設、子育てセンターや相談支援機関など、さまざまな場所で研修をしました。一人ひとりの利用者の状況は異なりますが、食事や介護の仕方など、その人にあわせた支援をしている場面を見て、とても大切なことだと思いました。天竜厚生会は、施設サービスのほかにも、福祉教育や精神障害の啓発活動、地域づくり、学習支援など、地域の方がたに対してもいろいろな活動を行っています。とくに福祉教育は、いろいろなことを考えるきっかけになりました。福祉はお金の支援など、目に見えることだけではありません。子どもの頃から、心から人を支えあう気持ちを育てることが大切だということを感じました。

★施設見学などに行きました

▶ 豊島区民社会福祉協議会（東京都豊島区）

第２回施設研修終了後、豊島区民社会福祉協議会を訪問しました。地域のニーズを把握し、関係機関等と連携しながら住民に寄り添った支援をどのように進めているかを学びました。また、民生委員・児童委員の活動や、ボランティアセンター等の取り組みを紹介いただきました。布製の玩具をつくり、地元の保育所等にプレゼントをしているボランティア団体の方からも話を伺い、社会福祉協議会が地域活動の場所の提供やボランティア活動のマッチングをしていることも分かりました。

第 38 期アジア社会福祉従事者研修生が来日

2024 年 3 月 14 日に、第 38 期生として 5 名の研修生が来日しました。11 か月間にわたる研修期間中、37 期生同様、施設見学や施設研修の実施を予定しています。

★ アジア社会福祉従事者研修とは ★

アジア各地域の福祉現場で活動するワーカーを日本に招き、日本語学習を受けた後、施設研修などを通して、日本の社会福祉について学びを深める事業です。1984 年の開始以来 40 周年を迎え、これまでに 8 か国 176 名が修了しています。

● 第38期研修（予定） ●	
3 月 14 日	来日
3 月～ 7 月	日本語学習 （6月施設見学）
7 月～ 8 月	第 1 回施設研修
9 月～ 2025 年 1 月	第 2 回施設研修
2 月 21 日	修了式

第 38 期 研 修 生 の ご 紹 介

韓　国

チョイ ジンヒー
（愛称：チョイさん）
専門 児童福祉

台　湾

ファン イーニン
（愛称：ファンさん）
専門 高齢者福祉

タ　イ

ロドゥンガマ マニーラット
（愛称：アイリーンさん）
専門 児童福祉

マレーシア

イ ジョアン
（愛称：ジョアン）
専門 児童福祉

スリランカ

スリヤウェーウェー パドゥマランカラ
（愛称：パドゥマさん）
専門 児童福祉

皆さまのご支援・ご協力を
どうぞよろしく
お願い申しあげます。

アジア研修事業修了生の活動への理解を深める
―インドネシアへのスタディ・ツアーを実施―

アジア社会福祉従事者研修のインドネシア修了生による活動の視察や交流を通し、両国の福祉関係者の関係強化を図ることを目的に、令和５年12月18日から22日まで、インドネシアでスタディ・ツアーを実施しました。ツアーには、国際交流・支援活動会員など15名が参加しました。

ツアーでは、主に以下の内容を実施しました。

①スマトラ沖地震（2004年）の被災地支援やアジア研修生推薦団体として本会事業の協力いただいたヤヤサン・ウサハ・ムリア（YUM）との親交を深め、現在の活動を知る

②ジャワ島西部地震（2022年11月）で被災し、全国老人クラブ連合会の寄付により緊急支援、助成を受けたソシエタ・インドネシアにおける復旧・活動状況を視察する

③今年度より実施している「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクトで支援している子どもとの交流をし、「心の支援」を行う

ヤヤサン・ウサハ・ムリア　チパナス YUM Village　訪問

山間にある地域の福祉拠点として子どもから未就労の若者、高齢者までが利用しており、財団のスタッフのエレナ氏（28期生）らの案内で、保育施設や職業訓練（縫製（ミシン）、PC、英語、農業）を行う施設を見学しました。農場では、茨城県で実習を受けたスタッフの指導により、野菜の有機栽培が行われており、地域産業の振興、若者の農業技術向上が図られています。

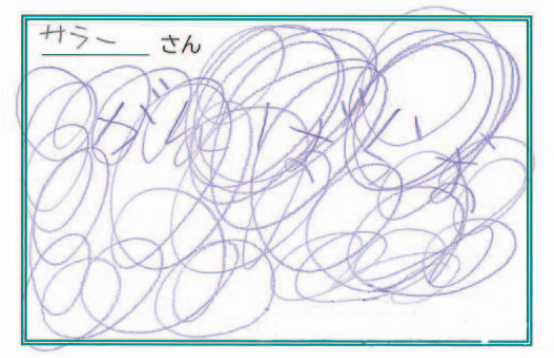
ソシエタ・インドネシア財団　訪問

田園の小さな集落にある施設では、要保護児童の一時保護や地域開発などが行われています。財団の代表であるワワン氏（19期生）は、地震によって同施設が建物の被害を受けながら、児童から高齢者までの住民に食事の提供や見守り支援を行ったことを報告しました。また、集落には公衆トイレが1か所しかなく、施設で環境改善に取り組んでいることもわかりました。視察時にも、施設には世代を問わず多くの住民が集い、賑いでいました。

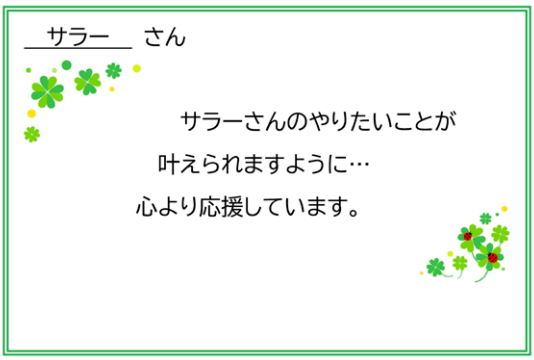
インドネシアの子どもとの交流（育むプロジェクト）

育むプロジェクトによりナンダン氏（23 期）の所属団体が支援するサラーさん（専門学校生）と交流しました。支援を受けたことで中学を卒業し、今秋から調理の専門学校（3 年制）に進学できたことが報告されました。学校生活での楽しみや将来の希望が語られ、プロジェクトの成果を確認する機会となりました。

また、参加者や国際交流・支援活動会員、法人会員の施設利用者から寄せられたイラストやメッセージをプレゼントし、学び続けるサラーさんにエールを送りました。



参加者の所属する法人が運営する放課後等デイサービスの子どもからのメッセージ



参加者（国際交流・支援活動会員）からのメッセージ。修了生が翻訳し、サラーさんに渡しました。

参加者からの感想（抜粋）

「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクトで支援する子どもは、将来の夢など目を輝かせて話をしてくれました。日本でも子どもを取り巻く環境は多くの問題が顕在化しています。子どもたちが健やかに成長できるための支援活動は、地道ながらも継続する必要性をあらためて感じました。

インドネシアの子どもたちの純真・純粋な気持ちを多くの場面で感じ、「生きていくことに対する人間の持っている力」を感じました。与えられているのではなく、自分たちの力でどうにかしようという気持ちを感じました。

今回訪問したチアンジュールは、震災の被災地でもありますが、公衆衛生や地域福祉が乏しい地域で、日本の 50 年前の姿を視ました。

スタディ・ツアーを通じて、日本での学びが自国の福祉実践につながっている現状を知ることができ、研修生受入れ法人として改めて当該事業に尽力していきたいと思える貴重な機会となりました。

ジャカルタの街中は近代的なビルやショッピングモールなどが立ち並んでいますが、少しはずれるとバラック小屋のような錆びたトタン屋根の家並みが続いていて、まだまだ発展途上だと感じました。義務教育を受けられない子ども、人身売買、子どもを持つ年齢が低く親教育が必要なケースもありました。それらの課題に対峙するインドネシアの修了生たちの福祉への意識が高く、とても刺激を受けました。

育むプロジェクト　子どもたちの近況が届きました

「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクトによって支援を受けたスリランカの子どもたちの近況が、修了生を通して寄せられましたのでご紹介します。
スリランカでは、第２期修了生のセートゥンガさんをプロジェクトリーダーに、３名の修了生が１０名の子どもたちの職業訓練にかかる費用や就学のための費用の支援を行っています。

奨学金のおかげで、ディニティさんは必要な学用品を手に入れることができました。制服一式や通学に必要な靴を購入することができ、授業に出席する際の尊厳を確保できました。皆様のご支援により、ディニティさんの家族の経済的負担が軽減されただけでなく、彼女が自信をもち、目標に向かってがんばれるようになりました。
デニティさんの学校の先生

カヴィシュカ君はコンピュータコースに入学して勉強しています。奨学金は主にその学費と交通費に充てていますが、現在勉強している基礎コースが終わった後は次のレベルのコースに進み、さらにコンピュータの勉強をしたいと考えています。

パトゥム君は2022年11月にネセック財団の児童養護施設を出て、近くのお寺に住みながら大学入試の勉強をがんばっています。奨学金のすべてを教材や塾の費用、交通費のために使っています。

プリヤンタ君は2022年12月にネセック財団の児童養護施設を出ました。近所のお寺に住みながら奨学金を使って運転免許とるために頑張っています。免許がとれたら運転手の仕事をしたいそうです。そのお金で調理師の免許をとって、海外で仕事をするのが夢だそうです。

子どもたちへのメッセージを募集しています

子どもたちに、ぜひ、日本の皆様からのメッセージをお寄せください。いただいたメッセージは、修了生を通じて子どもたちにお届けします。平易な日本語のメッセージであれば、修了生が母国語に翻訳して子どもたちに伝えます。
イラストや動画でも結構です。以下の連絡先にお寄せください。

全国社会福祉協議会総務部国際福祉協力センター
TEL　03－3592－1390　　mail　z-kokusai@shakyo.or.jp

社会福祉分野での国際交流に参加しませんか
ー国際交流・支援活動会員のご案内ー

全国社会福祉協議会では、国際交流・支援活動を支える「国際交流・支援活動会員」を募集しています。ご賛同いただける方は、ぜひ会員登録いただきますようお願い申しあげます。詳細は本会ホームページ（右記 QR コード）をご確認ください。

https://qr.quel.jp/url.php

■ 2023年度国際交流・支援活動会員にご登録いただいた皆さま

【法人・組織会員、賛助会員】

成光苑（大阪府）、中心会（神奈川県）、大阪自彊館（大阪府）、神奈川県匡済会（神奈川県）、梓友会（静岡県）、福寿園（愛知県）、静岡恵明学園、小諸青葉福祉会　やまびこ園（長野県）、夕陽会　本福寺こども園（滋賀県）、六親会（千葉県）、成寿会（秋田県）、南山城学園（京都府）、常盤会（鹿児島県）、慈愛会（福岡県）、宇治福祉園（京都府）、至誠学舎立川（東京都）、土佐厚生会（高知県）、みねやま福祉会（京都府）、恵の園（群馬県）、あすなろ会（島根県）、天竜厚生会（静岡県）、誠信会（静岡県）、ふじ福祉会（大阪府）、真宗協会（北海道）、村山苑（東京都）、大阪府社会福祉協議会（大阪府）、徳心会（東京都）愛生会（秋田県）、晋栄福祉会（大阪府）、聖徳園（大阪府）、クムレ（岡山県）、東京栄和会　なぎさ和楽苑（東京都）、くすの樹会（福岡県）、愛里巣福祉会（石川県）、県央福祉会（神奈川県）、堺暁福祉会（大阪府）　※いずれも社会福祉法人

公益財団法人　鉄道弘済会（東京都）、一般社団法人　社会福祉懇談会（岡山県）

【個人会員】（敬称略）

塘林　敬規／石井　謙次／下山　當子／品川　卓正／松下　明／石井　美奈／栗和田　敏／髙山　科子／谷　由紀子／小林　大眞／鈴木　美絵子／横内　定明／吉村　治／三上　智代／小林　和弘／小嶋　憲子／山川　常雄／辻村　泰範／辻村　万里子　　その他、9 名様（本会役職員含む）

【育むプロジェクト支援会員】（敬称略）

石井　謙次　その他、2 名様（本会役職員含む）

ご登録いただき、誠にありがとうございます。

令和5年度第2回国際社会福祉基金委員会を開催しました

2 月 22 日に、令和 5 年度第 2 回国際社会福祉基金委員会を開催しました。2024 年度の国際交流・支援活動事業について協議し、同事業のこれまでの成果や課題を整理したうえで、今日のアジア各国の福祉情勢を踏まえ、事業の再構築に向けた検討を行うことを決定しました。このほか、「育むプロジェクト」や「修了生助成事業」について助成決定を行いました。また、第 8 回アジア社会福祉セミナーを、10 月 1 日から 5 日に東京ビッグサイト等で開催することを確認しました。